

思いっきりバージョンUP！ PART3

～誰もが参加したい 未来の「魅力ある建築士会」とは～

「建築士会って、もっとこうなったらいいのに！」

「こんな活動があったら、私も参加したいな」

そう思ったことはありませんか？

魅力あふれる建築士会を皆さんと一緒に考える

ワークショップを開催！

これまでの報告会形式から一新、

8つの視点から、建築士会の魅力アップ策を徹底討論！

日時・場所

2025年9月19日
AM10：00～

グランキューブ大阪

10階

1004会議室



8つの視点で意見交換

- 視点① ジェンダー（社会的性別）
- 視点② 学生について
- 視点③ シニア世代（55歳以上）
- 視点④ 働き盛り世代の建築士
- 視点⑤ 若い世代
- 視点⑥ 情報発信（イベント等の集客）
- 視点⑦ 建築士の認知度向上
- 視点⑧ フリーテーマ（オンライン参加者）

【セッション当日の持ち物】

名刺（忘れずにご持参ください！）

お菓子（大歓迎です！みんなで楽しくシェアしましょう！）

飲み物（各自でご用意ください）

筆記用具

女性委員会 セッション概要

■参加人数：63名

■形式：ワークショップ形式・・・7グループに分かれグループトーク

- ・1グループの構成：ファシリテーター1名+8名=9名
- ・オンライン参加者で1グループ

お好きなテーマのテーブルに
お座りください
受付順に席が決まっています！

■スケジュール

10:00 開会挨拶：石貫 方子（連合会女性委員会 委員長）

10:05 グループワークの進め方説明

10:10 グループワーク

- ・自己紹介
- ・シンキングタイム
- ・グループ内意見発表
- ・グループ内まとめ

11:15 全体発表

11:45 閉会挨拶：齊藤 裕美（連合会女性委員会 副委員長）

11:50 閉会

■グループワークの内容

1. 自己紹介(10分)(各自1分、意見を言いながら自己紹介でもOK)
2. シンキングタイム(10分)
 - ・各自が意見やアイデアを付箋に書く。付箋一枚につき一意見を書く。
3. グループ内意見発表(30分)
 - ・用紙に(A3)に付箋を貼りながらアイデアを発表する。
 - ・他の意見を聞きながら意見を出し合う。
 - ・気づいたことを用紙(A3)に書いていく。
4. グループ内意見まとめ(15分)
 - ・付箋を整理しながらグループ内の意見をまとめる。
 - ・キャッチフレーズを考え、用紙に書く。
5. 全体発表 30分(3分×8グループ)
 - ・成果を発表する。

過去のセッションは
下記からご覧になれます



■ 日本建築士会連合会女性委員会 HP ■

<http://kenchikushikai.or.jp/torikumi/jyosei-iinkai/index.html>

① ジェンダー（社会的性別）について

報告者：渡邊 睦

「ジェンダー（社会的性別）について」といった少し難しいテーマではありましたが、9名（女8、男1）でテーブルトークを行いました。それぞれの方が歩んできたこれまでの経験すべてがこのテーマに通ずるようで、参加した方や友人知人の苦労話そして今直面している課題や対応策で盛り上がりました。その後は、「～誰もが参加したい 未来ある「魅力ある建築士会」とは～」の案を話し合いました。具体的な策の提案はまとまりませんでした。各個人の受け止め方・感じ方・職場環境・世代などが一様ではない中で、一人一人そして建築士会の意識改革が望まれた時間となりました。

☐ これまでの経験や苦労などについての共有

- ・「女性であること」で、職場・家庭での「仕事の役割」の決めつけ
- ・セクハラ、お茶くみ、荷物持ち、掃除の人、上棟式に立ち会えない、更衣室がないなどの差別
- ・容姿で判断される、意見を述べることにに対して「女なのに生意気だ」の声などの差別
- ・女性であることで、家庭と仕事そして建築士会との両立（時間のタイムマネージメント）の困難さ
- ・子育てに入ると仕事に戻れないといった現実
- ・女子大で学んだので「ジェンダー」を意識することはなかった
- ・自分の感覚なのか、「ジェンダーによる」差別を感じたことはなかった
- ・男性は力がある、弱いものを守る、狩猟する生き物
女性には力が弱い、家庭を守るのイメージがまだ隠れているのでは…（男性の意見）
- ・容姿が変わっていれば解るが、心のうちは解らない（周囲の人の認識の困難さ）、
- ・士会の中での女性数が少なすぎる
- ・女性委員会は、当時弱い立場の女性が集まって、協力して現在の居場所が出来ていた

☐ どうなったら「魅力ある建築士会」となるか

（建築士会だけでなく、職場・社会的な観点にもなってしまいましたが）

- ・男女の性別で張り合うのではなく、共存をしてお互いを理解し合う
- ・性別でなく、人間性・個性での理解を行い活動する
- ・女性委員会の活動内容を知ってもらい「性別はどちらでも OK」を広く知ってもらう

➡<まとめ>

人口の減少、建築業界の人材不足が叫ばれるなかで、男女の区別なくお互いを認め合う関係性の構築と世代間の連携、また女性委員会活動内容の周知と活動メンバー拡充（性別関係なし）などの提案などがあげられました。今回の参加者には20・30代はおらず、ジェンダーについての考え方や感覚は世代間のギャップも大きいことから、この世代の率直な意見も聞いてみたいテーマとも思いました。



学生を対象とした特別準会員枠を創設している
愛知県からの報告を皮切りに、元学生として考えた意見、学生数の地域格差、建築士会の存在を知らない学生が多い等色々な話が出ました。後半には建築の仕事を目指す時だからこそ旬なコンテンツを提供する必要性や、実際に働く建築士との関わりを持つ事の重要性、学生が参加しやすいイベントの開催方法等どうすれば学生の中に建築士会の存在意義が生まれるかについて話し合いました。



(キーワード) 未来の建築士を育てる、学生にとって魅力ある建築士会とは、建築の世界の世代間交流

<愛知県 特別準会員枠について(学生会員)>

- ・創設してからまだ3年程しか経っていないので目立った成果は無いが、今年の6月に開催された中四国ブロック青年建築士協議会／女性建築士協議会に学生が3名出席。愛知建築士会から交通費等の一部補助もあった。
- ・教員懇談会も行い、大学や専門学校の先生と建築士会会員(委員長等)が交流し、その流れで学生に建築士会を紹介してもらい入会となるケースが多い。
- ・入会後に学生が活躍できる場を充実させなければいけないという課題がある。

<学生×建築士会>

学校関係者との連携やこちらから出向く姿勢の必要性

大学出張座談会の開催、学校に場所を借りてのイベント、学生が参加しやすい空気感、大学との同催やインターン支援企画の有効性・共有

建築士(設計者)と一緒に

現場見学会、建物見学、スタートアップ建築の場に参加、学生向け企画や住まいに関するテーマの企画、経済活動等様々なシチュエーションを視る、建築の世界が若者と高齢の方で分断されているので交流の方法を探る

学生が主体となる事業を創る

全国大会鹿児島で青年委員会主催の見学会は案内人が学生であった

制度の企画段階で学生が参加

DX化が進む中で建築の考え方がこれから大きく変わっていくと思うので、学生の方との新旧意見交換が必要、全国大会等への簡単な参加方法の模索、学会・連合会との連携(声の掛け方)、学生の移動(各都道府県へ移動を知らせる事ができるシステムの構築)

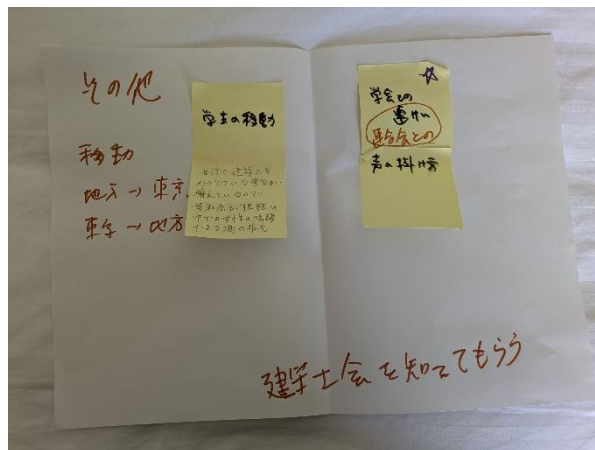
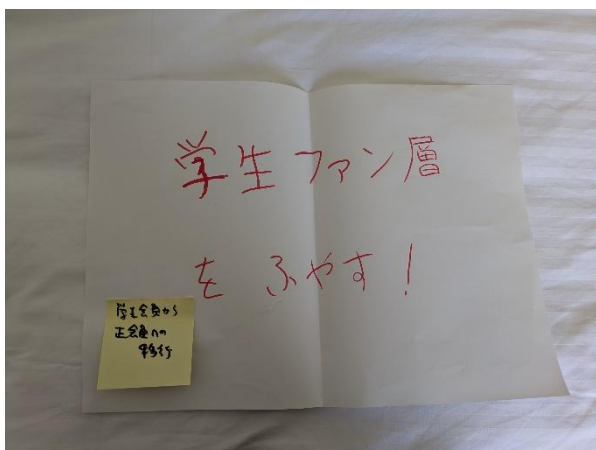
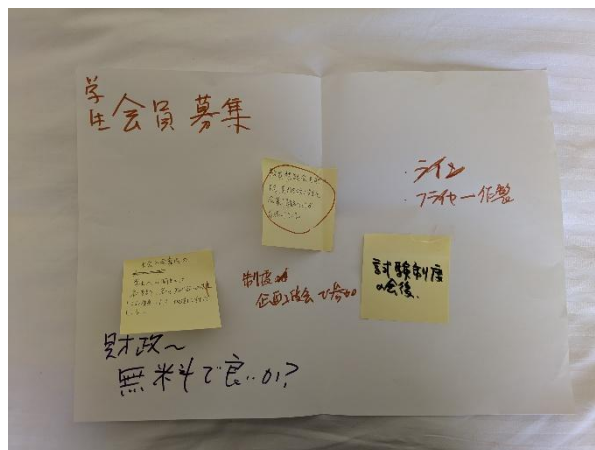
女性建築士を目指している学生の増加

女性で建築士を目指している学生も増えてきているので男社会が根強い中での女性が活躍できる場の拡充

発表風景



付箋に書かれた意見



全国大会おおさか大会 女性セッション ③シニア世代(55歳以上)について

報告者：長瀬 八州余

山形県、福島県、千葉県、神奈川県、群馬県、岐阜県、和歌山県から集まった、年代50代中盤から60代後半の7名によるメンバーで、セッションを始めました。

最初に、自己紹介をしました。

次に「付箋一枚について一意見を記入してください。内容は何でもよいです。自分の今思っていること、疑問に感じていること、皆さんに聞きたいこと何でもよいので」とお願いしたら、皆さん直ぐに書き始めてくださいました。

時間になったので、席順で付箋を白紙に貼りながら、意見の内容を発表します。それについて、皆で意見等を言って行きました。

① 年と共に仕事にどう向き合うか

・60才を目の前にして、いつまで責任を持って仕事ができるのかを考える。少なくとも10年間は施主に対して責任を持ちたいと思うと、事務所をいつまで続ける事ができるのか考える。

・知人は、65才ぐらいで事務所を閉めました。でも仕事自体は、CADを使えば拡大、拡大でいくらでも図面を書くことはできるので、後は体力・気力の問題かも。

② シニア世代の建築士会からの脱会について

・やる気があるが、体力に自信が無いので、士会をやめる人が多いように思う。
・士会に「いる場所」があれば、脱会はしにくいと思う。他県では「シニア倶楽部」を作って、シニアが自由に活動している例がある。

③ 新しい事へのトライの大変さ

・個人事務所だと、同じ様な士会仲間が集まり、協力して、新しいこと（BIM、法改正など）に取り組んでいる。

④ 若い時との違いの戸惑い

・若いときよりは、根気・集中力は無くなっているが、図面を書くことが好きなので、今でも続けていられるのだと思う。
・この中で最高齢の私は、足場に登って、今でも現場を見ているから、皆さんはまだまだ大丈夫だと思う。

⑤ 若い人との関わり方、士会活動を若い人へどうつなげるか

・「昔はこうだった」、「自分はこうした」と言いがち。若い人にはあまり言わない方がよいと思う。
・この年齢になったからこそその経験を伝えられたら良いが、方法が思いつかない。

などの有意義は意見が出ました。

『仕事が好き』『この様な話ができる場があることが女性委員会の良いところ』ではないでしょうかというまとめになりました。



↑ 意見交換の様子



↑ 意見発表の様子

現状
建築士会に参加して
いる会員は
シニア世代が多いと
感じられる。
女性委員会も50代~60~70代
をメインに活動している

<問題>
シニア世代の
建築士会からの
退会

シニアの
設計事務所
月11 (皆様の専攻が
新築改修でも増えている)

建築士の業務から
離れてくると...
士会から離れる人
が多い。

<自分>
「昔はこうだった」
(自分はこうした...)
と言いがち...
(若い人には言わない方が
良い?)

「やがてはあがり」
体力に自信がない
仕事をやめる予め
仕事をしなくても士会
で活動がしたい... どうすれば
いいか?

新しい建物に
興味がわかない
わけがうらい。
(勉強不足?)

士会の委員会
青丘があるのなら
若手委員会もあるか
と思う

設計
作業に時間がかかると
なると。思う様に
行かない

設計
水改と新しい
システム、BIM
など導入が
おっくう

新しい事への取組
BIMに挑戦
しているがなかなか
進まない。

活動を知らずに
出前講座を聞いて
います。

<自分>
自分がやるべき
仕事
やらない方が良い
仕事
(そろそろ考えるべき?)

<自分>
仕事をいまで
続ける?
(いつやめる?)

設計活動(総設計)
何人かでシニア
にふくむの様に
続けて行くか?

<問題>
若い世代の士会
という意識が
あるのか?

<問題>
士会活動を
若い人へ
どうつづけるか?

<問題>
シニア世代として
活動へ、どのように
関わるか?
(あり、口出ししない方がいい)

シンガポールに
行った時、若い
人ばかりの街で
向かい者は何を
しているか考えた

活動内容が、シニアに
向いているものではないか。
(女性部の活動)

<問題>
シニア世代の
建築士会からの
退会

眼や脳のおとろえ
日々感じているのが
皆、日々気づいて
いること、元気の源は
何ですか?

丁度、高齢の親と
乳幼児の子の面倒を
見るに忙しい為、
両方の安全に因り
住宅を考慮する事が多いはず

この年齢にふさわしく
この経験を
伝えられたら良いと
思いますが...
方法は?

全体
働く事より
優先すべき事が
あるのではと
考える

全体
そのために
社会から外れ
しまうのではない
とも考える

現場
定例会議等
参加しても若い人
が多く、自分が
居る事が多いのか。

現場
屋上に行く
クラブを昇る
のに自信がない

全国大会おおさか大会 女性セッション ⑤働き世代について

報告者：吉田幸恵

働き盛りの世代は、職場においてはプロジェクトの中核を担い、責任ある立場にあることが多く、またプライベートでは子育てや家庭の事情により自由な時間の確保が難しい状況にあります。そのため、建築士会の活動に、積極的な参加が困難である印象があります。

そんな環境の中でも建築士会の活動に参加する事が叶うようになるにはどうなればいいのか話し合いました。

（キーワード）現状の悩み、建築士会の仕組み、内容、良い点

<現状の悩みからの意見、主に時間不足が多かった>

- ・時間的、経済的余裕が無い。
- ・忙しい中でも時間を捻出して参加したくなる意義が見いだせない。
- ・小さい子供を連れて参加できる雰囲気があるといい。
（連れてくる人が少ないので連れて来づらいのか）
- ・自己研鑽の為に必要と思う反面、時間がない中重荷に思うことがある。
- ・子育てが終わったら介護が始まる。家から参加できる企画があるといい。
- ・会社の理解が少ない。（会費の補助や会議・イベントへの参加の融通）

<建築士会の仕組み・内容>

- ・お試し期間があるといい。
- ・会員だと社会的な信頼が増えると感じるが、入って見ないと活動内容がわからない
→インスタなどSNSで発信する必要がある。
- ・周囲から積極的にお誘いをする必要がある。
- ・入会申し込みがFAXなのは時代遅れではないか。
→若年層が入って欲しいのだから入りやすい仕組みにしておく必要がある。
- ・そもそも建築士会の存在を知らなかった！！
- ・会員の役職を持つ人の負担を減らす。
- ・フォローし合う体制が必要。女性委員長の負担が大きい。
- ・一般の方や建築士会に入会していない人に対しても開かれたイベントを開催しては。
- ・楽しい！と思える活動にする。
→建築見学会と食事会などの交流会は楽しかったし、このようなイベントで入会者を増やしたい。
- ・仕事などの悩みをシェアする場がもっとあるといい。
- ・そもそも建築士会が必要と思うか？自営の人は自分で情報収集するので必要性を感じるが
会社員は必要が無いのでは（建築士会＝飲み会ばかりのイメージがあった）
- ・業務に役に立つ活動内容にする。現状はボランティアでの奉仕活動の印象が多い。
- ・若い人は青年委員会で合同にイベントする方がいいのではないか
- ・委員会内での事業を厳選して、負担を減らす。

[illegible]

全国大会おおさか大会 女性セッション ⑤若い世代(20 歳～35 歳)について

報告者：松田まり子

若い世代の建築士が抱える「時間と費用の不足」という課題を前提に以下の7つの視点から、誰もが参加しやすく、自身のキャリアと生活に資する魅力的な会を目指すべきという話がありました。

1	自由な発信と交流の場	若手が意見・作品を発信できるプラットフォームの提供。 「映える」建築写真の撮影技術イベントなどを通じた発信メンバー同士の繋がりづくり。
2	創造を促す設計コンペ	既成概念に囚われない若手の思想・表現を試せる設計コンペの開催。
3	助け合えるコミュニケーション体制	子育て世代向けのワークシェア（仕事分担）システム。 経験年数に関わらず、専門的な疑問を気軽に相談できるオンラインプラットフォームの構築。
4	魅力的な体験型イベント	名建築の見学や、個人では入れない場所への団体見学。 若手有名建築家との交流講演会。 名建築での高価ではないランチ会、ビーチパーティなど、カジュアルな交流会の開催。
5	実務に直結するスキルアップ支援	建築士試験に出る建物の見学会。 確認申請手続の「いろは」等、即戦力となる実務基本講座。
6	未来を育むキャリア支援	小中学生向け建築講座（人気アニメの家を題材にした模型作りなど）の開催。 他社での短期研修制度の導入など、実務経験の幅を広げる支援。
7	時間と費用の負担軽減	全ての活動において障壁となる時間と費用の負担を極力抑える。 若手メンバーの参加を全面的にサポートし、活動しやすい環境を整備する体制づくり。



⑥ 情報発信について （イベント等の集客）

報告者：萩原 香

イベント等の集客の情報発信について、7名で意見交換を行いました。

情報発信のツールは様々ありますが、大別するとITとアナログでの発信となります。会員、会員でない建築士、建築を学ぶ学生、一般と、対象に合わせた情報発信をしていくことが必要となりますが、発信者の基本的なスキルも求められます。また、年代によって使用するツールが限定されている状況は、共通の課題になっていました。意見交換の中で、イベントの集客だけでなくイベントの内容や、会報誌などの情報も得られ、情報発信が会員増強へとつながっていく可能性があると思いました。

◆情報発信のツール

- ・情報発信のツールとしては多くはチラシ、メール、そしてさらにホームページ、会報誌、フライヤー、メルマガ、新聞、Facebook（フェイスブック）、Instagram（インスタグラム）、LINE（ライン）、そしてPeatix（ピーティックス）などを使用している。Peatixについては、利用している参加者から使い方や特性など共有した。

◆情報発信の対象

- ・会員、会員でない建築士、建築学生、一般の人と対象は様々になるので、対象にあった発信が必要。

◆学生への情報発信について

- ・地元の大学との継続した関係性があり、学生に向けて情報発信をしている。
- ・イベントに参加した学生が入会した例など学生への情報発信を行っている意見が複数あった。

◆チラシのデザインについて

- ・デザインについても重要で、得意な会員がデザインを担当し効果を高める。

◆基本的なスキル

- ・伝えることが明確でなかったり、字が小さかったりと基本的なスキルが不足している場合があるので、作成者のスキルを向上させることが必要。
- ・5W1H「いつ、どこで、誰が、何を」は大事。
- ・ITの講習会、ChatGPTの講習会を行っている。
- ・情報を収集する場合もネットの情報をうのみにせず、自分自身での確認も必要。

◆効果を高める

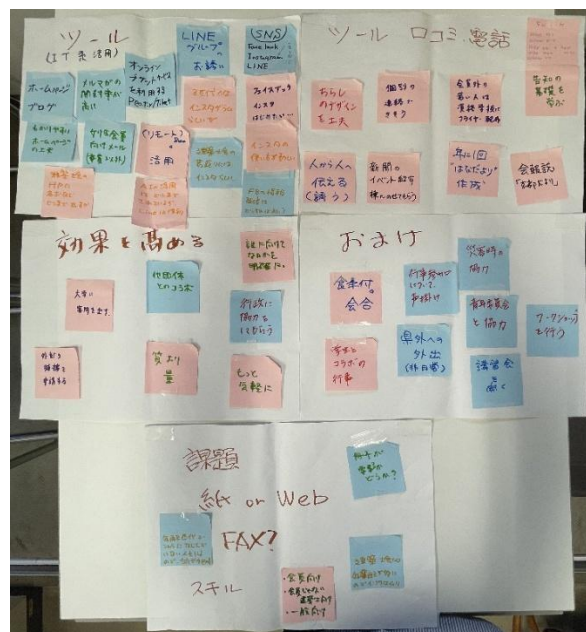
- ・電話・・・情報発信後に、直接電話をすると効果がある。
- ・口コミ・・・人から人へ、知人からの情報は効果がある。
- ・イベントの内容に、食事会など交流を含めたプログラムや、県外見学など企画を工夫する。
- ・LINEグループの中での情報共有。

◆信頼される情報

- ・行政からの発信、行政の後援など、行政が関係すると信頼性が高まる。

◆集客以外の情報発信について

- ・会報誌も各県で発行されているが、愛知県では、会報誌だけでなく会員限定でメルマガも月2回発行など行い会員のメリットとしている。各県独自のそれぞれの県での取り組みを知った。



⑦建築士の社会的認知度向上

報告者：大泉みどり

一般の方に「〇〇建築士会です。」と電話をした際に「えっ!？」とすぐ理解してもらえなかった。というショッキングな情報からディスカッションがスタートしました。そして、残念ながら社会的に医師、弁護士、税理士などに比べ建築士は社会的地位が低いと感じ、いかに向上させていけるか？問題提起されました。お医者さんの「係りつけ医」のように地域に根差した活動をしていけば社会的認知度が上がるのではないかと。では、誰もが気軽に相談できるような存在となるにはどうしたら良いのか？

また、建築士会の中においてこんなに素晴らしい活動をしている「女性委員会」を知っていただきたい！

Answer；これからの活動に参考になる多くの意見が出されましたので紹介いたします。

<建築士会を知ってもらうには・・・>

・メディアを使う

士会役員の方や事務局に取材依頼のコンタクトを取っていただいた。

役所や記者クラブへのポスティングをする。

成功例：イベント開催時に TV で放送されたら、次のイベントの予約がすぐにいっぱいになった。

・SNS の活用

Instagram を始めた

確かに：設計事務所の CM を見ることが無い→知ってもらう機会が少ない

・建築士の仕事アピール+地域貢献

災害時対応の支援体制の構築

防災イベントの開催

街歩き（建物紹介・避難場所の確認など）

山歩き（環境循環システム講座・木に触れる）

家づくりワークショップ（お菓子の家・段ボールの家・身近なもので家づくり）

親子参加のワークショップ（森のようちえん・まちづくり）

建築士はどんな時に頼りになるの？（住まいのハウスクターネットワーク）

・会員増強

法改正の実践的な Q&A セミナーなどを開催（行政との強いパイプ作り）

建築塾（学生会員・お試し会員）

建築系学校訪問で学生にアピール

一個人への声掛けで会員増強

将来の建築士会継続のためにも、子どもたちに環境や災害に向き合う機会を設ける事、重要文化財などの建物を知ってもらい文化の継承に繋げる事、健康にやさしい暮らしづくりのエキスパートの「建築士」としての地位向上のために「女性委員会」は楽しく尽力していきましょう！

